

# 2019 年秋季研究発表会 講演募集

講演申込期間: 2019 年 5 月 27 日(月)~6 月 11 日(火)

原稿提出期間: 2019 年 7 月 1 日(月)~7 月 12 日(金)

## ★重要な連絡事項★

### 【講演申込及び講演申込期間について】

1. 講演申込期間は 2019 年 5 月 27 日(月)~6 月 11 日(火) です。
2. 講演申込は、原則 web からの申込になります。この期間を過ぎますとお申し込みを受け付けられなくなりますのでご留意下さい。
3. 講演申込の受領メールは連絡者として登録したメールアドレスにお送りします。【発表者情報】に登録した発表者 E-Mail にはお送りしませんので、ご承知おき下さい。

### 【原稿提出期間について】

1. 講演発表原稿の提出期間は 2019 年 7 月 1 日(月)~7 月 12 日(金) です。
2. 講演発表原稿の提出は、期間を過ぎますと提出できなくなりますのでご留意下さい。
3. 講演申込の受領メールは連絡者として登録したメールアドレスにお送りします。【発表者情報】に登録した発表者 E-Mail にはお送りしませんので、ご承知おき下さい。

### 【研究発表会論文集発行日(公開日)】

1. 講演論文集の発行日は開催日の 2 週間程度前になります。特許等の手続きをされる方はご注意ください。2019 年秋季研究発表会の論文集発行日(公開日)は 2019 年 8 月 21 日(水) です。

### 【研究発表会事前参加登録(Web)及び論文集の事前送付】

1. 2019 年秋季研究発表会の web 経由の事前参加登録は、2019 年 6 月 17 日(月)~2019 年 8 月 14 日(水) の期間、事前参加登録専用の事前参加登録サイトから登録をお願いします。事前参加登録をされた方は、ご希望により講演論文集の事前送付も可能です。詳細は、後掲の「Web 等からの研究発表会事前参加登録について」をご覧ください。
2. 事前参加申込サイトは、学会ホームページ及び講演申込受領通知のメール等でご案内いたします。
3. 事前参加登録は、メールでの申し込みも受け付けます。事務局にお尋ね下さい。

### 【研究発表会の会場での参加登録について】

1. 2019 年秋季研究発表会で、事前参加登録(Web)を行わなかった方は、「会場登録参加用紙」を研究発表会会場の総合受付にご提出いただくこととなります。
2. 「会場登録参加用紙」は、学会ホームページにもファイルを置く予定です。予めご記入の上お持ちいただくと総合受付での参加登録に要する時間が短縮されます。「会場参加登録用紙」を置いてあるサイトは、学会ホームページ等でご案内いたします。できるだけ事前参加登録をご利用ください。

2019 年秋季研究発表会を次のとおり開催します。講演希望者は講演申込要領を熟読の上、期限までにお申し込み下さい。講演申込 URL は、日本音響学会ホームページ (<http://www.asj.gr.jp>) でお知らせします。

なお、講演論文集は、プログラム(要領)、講演要旨、講演論文 CD-ROM 等で構成し、A4 判、約 200 ページで発行いたします。

開催月日 2019 年 9 月 4 日(水)、5 日(木)、6 日(金)

会場 立命館大学びわこ・くさつキャンパス

(滋賀県草津市野路東 1 丁目 1-1(〒525-8577),

JR 東海道本線(琵琶湖線)「南草津駅」下車、近江鉄道バス「立命館大学行き」又は立命館大学経由「飛島グリーンヒル行き」乗り換え約 20 分

実行委員長 山下 洋一 教授(立命館大学)

- 講演申込期間** (1) webからの申込；2019年5月27日(月)～6月11日(火)（期限厳守）  
web経由での申込ができない方は、事務局にご相談下さい。
- (2) 申込確認 e-mail；申込受付後直ちに受付サーバーから受領通知メールを連絡先に登録した e-mail アドレスにお送りします。必ず申込確認メールの受領を確認下さい。最終申込ボタンの押し忘れのため講演申込が完了していないケースがあります。なお、24時間以内に届かない場合は、学会事務局にご相談下さい(原稿提出先(2)の e-mail アドレス又は電話番号)。

**講演申込内容の修正期間** 2019年5月27日(月)～6月11日(火)

◎講演申込期間内であれば申込受付時に e-mail でお送りする整理番号及びパスワードで自由に修正可能ですが、この期間後の修正はできませんのでご注意下さい。

**講演申込 URL** 日本音響学会ホームページ (<http://www.asj.gr.jp>) でお知らせします。

**提出原稿詳細** 作成・提出等の詳細は、「III. Web 経由の提出原稿」をご覧ください。

**原稿提出期間** (1) webからの原稿提出；2019年7月1日(月)～7月12日(金)（期限厳守）

(2) web 経由での原稿(2種類)の提出ができない方は、原稿提出期間内に学会事務局までご相談下さい。

**原稿提出先** (1) web の原稿提出サイト；講演申込の受付確認メールに記載

(2) 学会事務局連絡先；e-mail；[asj-meeting@asj.gr.jp](mailto:asj-meeting@asj.gr.jp)

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-18-20 ナカウラ第5ビル2階

一般社団法人 日本音響学会研究発表会準備委員会 (Tel. 03-5256-1020 Fax. 03-5256-1022)

**研究発表会論文集発行日** 2019年8月21日(水)

◎発行日の表示場所は、講演論文集の最終ページ（奥付）及び CD-ROM です。

## Web 等からの研究発表会事前参加登録について

- 2019年秋季研究発表会に参加を予定されている方は、研究発表会事前参加登録申込サイトから参加申込を行って下さい。
  - 事前参加登録をされた時点で、参加の手続きが完了したことになります。
  - 事前参加登録の受付は、2019年6月17日(月)から2019年8月14日(水)までです。これ以降は、研究発表会会場の総合受付で会場参加登録を行って下さい。会場での参加登録の際には、「**会場参加登録用紙**」の提出が必要です。
  - 事前参加登録サイトで、講演論文集の事前送付を希望することができます。ご希望の方には、研究発表会開催前にお手元に届くように講演論文集をお送りします(論文集の発送は、2019年8月23日頃になります)。なお、講演論文集は研究発表会当日に総合受付で受け取ることも可能です。
  - 事前参加登録をされた方には、請求書及びコンビニ・郵便局払込用紙をお送りいたしますので、参加費のお振込みをお願いします。
  - 請求書に同封して、講演論文集の事前送付を希望された方には、「参加章引換証」を、会場での受け取りを希望された方には「講演論文集・参加章引換証」をお送りします。研究発表会当日に**引換証を総合受付までご持参下さい**。
- 事前参加登録は、前記事前参加登録サイト以外にも e-mail 等でも受け付けます。ただし、請求先、論文集送付先等の必要事項の連絡が必要です。論文集の事前送付に関する記載がない場合は、会場での受け取りとさせていただきます。
- 現在会員外で、「会員としての参加」をご希望の方は、事前申込より先に入会手続きを行い、その後、参加手続きを行って下さい。入会手続きは、学会ホームページからお願いします。
- 会員番号が不明な場合は、学会へお問い合わせいただくか、「不明」とご入力下さい。学会で確認をいたします。なお、入会手続きが終了し、会員番号が不明な場合は、「申請中」あるいは、会員申込受領通知(e-mail)に記載の受付番号(6桁)をご入力下さい。また、会員外の方は「会員外」、一般学生の方は「一般学生」とご入力下さい。
- 事前参加登録サイトは、学会ホームページ及び講演申込受領通知のメールでご案内いたします。
- 参加費には、「事前登録参加費」、「会場登録参加費」の2つがあります。詳細は、後掲の参加費をご覧ください。

## I 共通事項

- 講演者の資格**：正会員（名誉会員，終身会員を含む）、学生会員であること。  
会員外の方は、講演申込前又は講演申込後早期に入会の手続きをして下さい。  
入会申込は、当学会ホームページ(<http://www.asj.gr.jp/overview/02.html>)からお手続き下さい。

研究発表会が始まる1週間前までに入会手続きがなされていない場合は、講演発表を認めません。ただし、特別な理由があつて、入会の手続きを研究発表会会場で行いたい旨、あらかじめ申し出た場合には、発表を認めることがあります。

なお、上述の理由で講演を取り消された場合、講演論文集等からの当該講演の削除及び原稿の返却は行いません。

また、入会手続き後、会員会費が未納の場合も、発表をお断りする場合があります。既会員で、当該年度の会費が未納の場合も同様です。

2. **講演件数**：一人2件以内。ただし、数件の講演連名者となることは差し支えありません。

※代理発表について

1) 原則として代理発表は認めません。

2) やむを得ない事情があり、事前に代理発表届(様式は事務局で準備します)が学会事務局に提出された場合には、連名者にかぎり代理発表を認めることがあります。

3) 上述の2)によって代理発表が認められる場合であっても、当初の講演予定者及び代理発表者が上記の「発表者の資格」を満たさない場合には、代理発表は認めません。

4) ポスターセッションの場合も、上述の1)～3)に準じますが、発表者が休憩等で席を離れる際の連名者の代理は認めます。

5) 栗屋潔学術奨励賞の有資格者の発表で代理発表が行われた場合は、当該発表は栗屋潔学術奨励賞対象者の発表とは認められません。学生優秀発表賞の場合も同様です。

3. **講演申込料**：1件につき、5,400円(税込)、申込後、請求書をお送りいたします。申込後申込者側の都合で取り消された場合においても申込料を徴収いたします。

4. **講演の区分**：一般講演、ポスターセッション及びスペシャルセッションとし、次によります。

(1) **一般講演の講演時間**

講演1件につき、講演時間は10分～12分とし、質問時間をあわせて15分とします。各セッションの最後に質疑等に使用する10分間のフリータイムを設けます。

(2) **一般講演会場に用意する機材**

◎ 全ての一般講演(口頭発表)会場に用意するもの

PC用プロジェクタ、スピーカの2種

※ 上記以外の機材につきましては、発表者側の責任で準備・手配下さい。

注)PCは発表者が持ち込んで下さい。プロジェクタへのRGBケーブルの接続には切替器を準備します。プロジェクタへのケーブル受け口コネクタの規格はD-sub 15 pin(ミニD-sub15pinあるいはHD(3way)15pinと呼ばれることもある)で、15pinが3列配置になっている、現在最も多く用いられているタイプです。プロジェクタ自体の不具合を除き、機器の動作は発表者がすべての責任を持って下さい。

※ 前記プロジェクタの接続に特別な機材が必要な場合は、ご自身でご準備下さい。

(3) **ポスターセッション**

ア. 超音波(水中音響を含む)、音声A、音声B、建築音響、電気音響、聴覚(聴覚・音声を含む)及び音声コミュニケーションの7部門を予定します。プログラム編成委員会の決定によっては、ポスターセッションを開催しない場合も、また、前述以外の分野でポスターセッションを開催する場合があります。なお、後掲の音響教育委員会のスペシャルセッションでポスターセッションの募集がありますが、このスペシャルセッション以外のスペシャルセッションでは、ポスターセッションでの発表は募集しません。

イ. ポスターセッションを希望する場合は、講演申込の際、該当欄をチェックして下さい。

ウ. ポスターセッションへの割当は、プログラム編成委員会で決定します。できるだけ発表者の希望に添うように編成を行います。プログラム編成上の都合によりご希望に添えない場合もあります。あらかじめご承知おき下さい。

エ. 原則として一つのポスターセッションは2時間とします。従って、第1日の午後は、2セッションを予定します。ただし、プログラム編成委員会の決定によっては、2時間以内となる場合、又は1分野の発表件数が多い場合は、2時間を超えて講演時間を設定する場合があります。また、ポスターセッションは、他分野と共催・合同で開催する場合があります。

オ. ポスターを貼付するパネル板の寸法は、追って連絡します。

カ. ポスターセッション会場には、電源などの機材は用意しません。

#### (4) スペシャルセッション(SS)

分野ごと又は分野横断的にテーマを選んで、隣接領域の研究者との交流及び新たな分野の創設を図り、より一層討論の活性化を図るためにスペシャルセッション(SS)を設けます。このセッションには招待講演等を含める場合もあります。今回は、次の10テーマを企画します。なお、「9) 音響教育委員会オープンキャンパス・オープンラボにおける音響展示」では、発表はすべてポスターセッションで行います。このスペシャルセッション以外のスペシャルセッションでは、ポスターセッションでの発表は募集しません。

##### 1) 音声研究委員会

分野名：分野横断（音声A, 音声B）

和文テーマ：音声情報技術の新たな応用に向けて

英文テーマ：Towards New Applications Using Speech Technology

主旨：深層学習に代表される機械学習の導入によって音声認識・合成の性能が近年大きく向上し、様々なアプリケーションに音声処理技術が活用されてきている。音声認識は、AI スピーカの普及、ロボットとの音声による対話の実現には不可欠な技術となっている。音声合成では、合成音声の高品質化に伴う成りすましの検出など、新たな課題も生まれている。社会での応用を視野に入れて研究を進めることは、基礎的な研究においても重要であると考えられ、最前線での応用の現状を知っておくことには大きな意味がある。本セッションでは、音声処理技術の応用に関する現状や新たな展開について議論するとともに、今後の研究の方向性を探る。

##### 2) 聴覚研究委員会

分野名：単独

和文テーマ：注意研究の基礎と応用・臨床

英文テーマ：Basic, applied, and clinical research of the attention

主旨：注意は様々な情報の中から特定の情報を抽出する重要な機能である。そのため、注意の欠如は、交通事故などを引き起こし、人々の安全に影響を与える。また、隠れ難聴や聴覚情報処理障害のように日常のコミュニケーションにも影響を与える。我々の生活に密接に関わっているが、まだ未解明な部分の多い注意について、聴覚に限らず他感覚も含め、基礎研究から応用研究、臨床研究まで幅広く議論する場を設けたい。

##### 3) 電気音響研究委員会

分野名：共催（電気音響，超音波，アコースティックイメージング）

和文テーマ：光技術と音響計測

英文テーマ：Optical technology and acoustical measurement

主旨：音に関わる研究を行う上で、音響計測は欠かせない技術である。近年、光学計測技術の発展により、光を用いた非接触音響計測が実現されており、その応用範囲も広がりつつある。本スペシャルセッションでは、光学と音響学にまつわる計測技術に関して広い観点から議論を行い、分野を横断した研究交流を図ることによって、今後の可能性や解決すべき課題について現状の知見の共有を行う。

##### 4) 超音波研究委員会

分野名：共催（超音波，アコースティックイメージング）

和文テーマ：非線形音響技術の最近の動向

英文テーマ：Recent advances in nonlinear acoustics

主旨：近年、超指向性スピーカ（パラメトリックスピーカ）など線形領域の音響技術では為し得ない音波の非線形現象を利用した各種音響技術が確立されている。また医用や非破壊検査においては、非線形効果によって従来では見ることでできなかった情報を可視化する非線形イメージング技術の発展も目覚ましい。そこでこれらの非線形現象を利用した各種超音波技術の最近の研究動向について、本研究分野に関連深い「超音波」と「アコースティックイメージング」によるスペシャルセッションの共催を提案する。

##### 5) 高臨場感オーディオ調査研究委員会

分野名：共催（高臨場感オーディオ，電気音響，建築音響，聴覚，音楽音響）

和文テーマ：高臨場感オーディオと人—高臨場と聴感

英文テーマ：High-reality audio and listeners - high-reality and audibility

主 旨：高臨場感オーディオ調査研究委員会は、昨今の映画や放送業界における立体音響再生技術の実用化を受け、電気音響、建築音響、聴覚、音楽音響とそれぞれの分野で独自に進められている研究の情報共有、活性化、実用化を目的としている。本セッションでは、高臨場感オーディオの収録・編集・伝送・再生技術、特に高臨場感オーディオが聴取者に与える心理的影響に関する研究成果を横断的に紹介、議論してもらうことで、今後の課題を探るとともに相互交流を目指すものである。

#### 6) 音のデザイン調査研究委員会 (その1)

分野名：単独

和文テーマ：電動化・自動化時代の自動車の音デザイン

英文テーマ：Sound Design for Electric and Autonomous Vehicles

主 旨：自動車の電動化の進展や、自動運転技術の発展は、音響技術や音のデザイン領域での新しい課題を生み出している。電動化による静音性は、過去にない自動車の音デザインのニーズをもたらした。自動運転によって自動車と人とのコミュニケーションインターフェースが複雑化するため、音によるインターフェースデザインの重要性が増してくる。車内エンターテイメントを含め、これまでに無かったサービスのためのデザインニーズも生まれてくる。本スペシャルセッションでは、電動化・自動化などの自動車技術の変革に伴う、新しい音デザイン課題に関する現状や課題を共有し、応用事例や今後の展望を議論したい。

#### 7) 音のデザイン調査研究委員会 (その2)

分野名：共催 (音のデザイン, 音バリアフリー)

和文テーマ：高齢難聴と音デザイン

英文テーマ：Age-related hearing loss and sound design

主 旨：超高齢社会となった日本において、高齢難聴者にフレンドリーな音デザインの検討は重要な社会的課題となっている。高齢難聴者による音聴取、またスピーチ、環境音、楽音などの音が満たすべきデザイン規範、実環境における課題などを多方面から議論する。

#### 8) 音声コミュニケーション調査研究委員会

分野名：単独

和文テーマ：人の音声コミュニケーション –その科学と支援技術–

英文テーマ：Human Speech Communication: Its science and supporting technology

主 旨：人の音声コミュニケーションについて、科学的な側面とそれを支える支援技術に関するSSを開催する。人と人之间ではバーバルな、あるいはノンバーバルなコミュニケーションが行われ、また複数のモダリティーで実現される場合も多い。「人」と一概に言っても、赤ちゃんや子どもからお年寄り、障がい者までその幅も広い。そして人と人之間に機械やICT技術が介在する場合まで様々である。本SSでは科学的側面と支援技術の両面からこのテーマについて議論する。数名の招待講演者に加え、一般講演も同時に受け付ける。

#### 9) 音響教育委員会

分野名：単独

和文テーマ：オープンキャンパス・オープンラボにおける音響展示

英文テーマ：Exhibition of acoustics in open campus and open laboratory

主 旨：オープンキャンパスは、主に大学が学生募集を主目的として、その教育研究の魅力的な一端を公開するものである。企業あるいは団体の研究所は、オープンラボあるいは付属博物館によってその研究内容を広く一般大衆に公開している。これらのイベント・博物館において、音響教育および研究の内容を展示公開している大学・研究所による、その展示内容を紹介するポスターセッションを募集する。招待ポスター講演として、日本を代表する企業研究所複数へ依頼する。このポスターセッションを通じて、音の研究や教育に興味をもってもらうための様々な取り組みや展示を共有することで、音響教育・音響学の一層の普及を促す。

#### 10) スポーツ音響調査研究委員会

分野名：単独

和文テーマ：スポーツと音 その4

英文テーマ：Sports and acoustics IV

主 旨：スポーツ分野への音響学の貢献の可能性を探りながら音響学の新しい分野の構築をめざし、多

方面からの議論を続けている。2018 年秋はサウンドテーブルテニスをはじめ 5 種類のスポーツに関わる研究と競技会における音響的な課題について、また、2019 年春は招待講演 1 件ほか 6 件の一般講演があり、活発な議論を行なった。これらを踏まえ、スポーツと音に関する科学的議論のさらなる深化と展開を期し、スペシャルセッションを実施する。

5. 使用言語：講演及び講演原稿の使用言語は、日本語及び英語とする。

## II. web からの講演申込

1. 講演申込サイト：日本音響学会ホームページでお知らせします。

### 2. 講演申込の概要：

(1) 部門：音響教育，水中音響，超音波，熱音響技術，電気音響，騒音・振動，建築音響，アコースティックイメージング，聴覚，聴覚・音声，音声コミュニケーション，音声 A，音声 B，音楽音響，音支援(音バリアフリー)，音のデザインの 16 部門とします。詳細は、後掲の「表 1. 各部門ごとのセッション名のリスト」を参照して下さい。今季では、電気音響部門，熱音響部門のセッションを大幅に変更追加しました。前記 2 部門以外でも一部変更がありますので、ご確認下さい。

プログラム編成上の都合で希望部門に合致しない場合もありますのでご了承願います。

なお、発表件数の多い部門では、講演発表の際に並行した時間帯となる場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

これらの部門のうち、「音声 A」は機械による音声の聞きとりを目的とした処理過程を扱い、「聴覚・音声」は人（あるいは動物）の聴覚を介した音声（あるいはコミュニケーション音）の聞きとり、処理過程を扱います。「音声 B」は音声の産出過程を扱います（何らかの信号処理が施されたものを含む）。「音声コミュニケーション」は人間による音声生成・音声知覚の両方を含む音声言語科学や音声コミュニケーションに関わる周辺分野、言語教育応用・臨床応用などを広く含みます。従って、「音声 A」は『音声の認識・強調・翻訳・検索，音声対話システム』など、「聴覚・音声」は『音声の知覚学習過程，主観評価，中枢機能（聴覚言語障害）』など、「音声 B」は『音声の分析・合成・符号化方式，信号処理』など、「音声コミュニケーション」は『音声科学からその周辺・応用分野まで』などを対象とします。

「音響教育」の部門は、音響に関わる教育プログラム，教育システム，教材の開発などのほか、音響教育に関する事例，実践，調査の報告，教育における音の利用など幅広い研究発表も対象とします。

「音支援（音バリアフリー）」の部門は、障害者・高齢者支援，快適なコミュニケーションの実現を目的としたデバイスやシステム，音のバリアフリー・ユニバーサルデザインなどの他，障害者教育における音の利用など幅広い研究発表を対象とします。

「熱音響技術」の部門は，熱音響現象の物理，熱音響利用に関する技術展開，熱音響技術の応用展開（廃熱利用や冷却システム等の実施例ならびに実用へ向けた提案等）の熱音響技術全般に亘る研究成果を対象とします。

「音のデザイン」の部門は，製品音のデザイン，サイン音のデザイン，サウンドスケープ・デザイン，公共空間の音環境デザイン，音のユニバーサルデザイン，映像メディアにおける音のデザイン，あるいは音のデザインの基礎となる音質評価などの研究成果を対象とします。

(2) 使用機材：口頭発表会場に準備する機材は、PC 用プロジェクタ及びスピーカの 2 種です。

(3) 題目：論文内容を明確に表すよう付け、「〇〇研究第〇報」というような表現は副題として下さい。

(4) 著者リスト：

・「著者区分」は、次の通りとし、「著者区分」に従って、著者区分マークを選択して下さい。

ア. 学生優秀発表賞対象者：著者区分マーク“☆”

学生優秀発表賞対象者として登録できる方は、講演発表者で、(1)講演の時期において学生会員である者、(2)研究発表会講演申込の際、発表者として登録し、かつ講演を行った者、(3)この賞を受けたことのない者、です。推薦者に同賞の対象者であることが分かるように発表プログラム(講演申込時の記載による)、要旨及び講演原稿(CD-ROM)の発表者氏名の前に“☆”印を付して下さい。

なお、学生優秀発表賞の対象者は、粟屋潔学術奨励賞の対象者にもなります。

イ. 粟屋潔学術奨励賞対象者：著者区分マーク“◎”，学生会員は“☆”

粟屋潔学術奨励賞対象者として登録できる方は、講演発表者で、(1)講演時において学生会員である者又は当該年度末において満年齢 39 歳以下の正会員であるもの、(2)研究発表会講演申込の際、発表者として登録し、かつ講演を行った者、(3)選定の時期において本会会員である者、(4)この賞を

受けたことのない者、です。推薦者に同賞の対象者であることが分かるように発表プログラム(講演申込時の記載による)、要旨及び講演原稿(CD-ROM)の発表者氏名の前に“◎”印又は学生優秀発表賞の対象者は“☆”印を付して下さい

ウ. 発表者で上記ア及びイに該当しない方：著者区分マーク“○”

エ. 連名の会員：著者区分マークは無記入。

オ. 連名の非会員：著者区分マーク“△”

- ・「会員 No.」は、会員申請中の方は申請中と記入して下さい(発表者以外は、未記入で可)。
- ・「姓(漢字)」、「名(漢字)」は、アルファベット表記の氏名の方もカタカナ又はアルファベットでご記入下さい。
- ・「Name(英文 姓一名)」は、アルファベットの氏名で“姓 名”の順で入力下さい。
- ・「所属(略称表記)」はプログラム一覧の表記に必要な所属を省略した形で記入し、詳細すぎる所属は避けて下さい。記述内容は、学部、大学院、研究所程度までとして下さい。株式会社の表記は除いて下さい。  
例：〇〇大学工学部→〇〇大・工、〇〇大学××大学院△△研究科→〇〇大院・△△研  
〇〇株式会社××事業部→〇〇(あるいは必要に応じて〇〇・××事)  
(株)〇〇××研究所→〇〇・××研
- ・発表者、連名者で、個々に複数の所属を表示する場合の区切り文字は、”/(半角スラッシュ)”を使用して下さい(重要、全角スラッシュは使用しないで下さい)。

(5) 発表者情報：発表者の方への連絡に必要です。発表される方の e-mail アドレスをご記入下さい。携帯電話のメールアドレスは、避けて下さい。なお、発表者情報に記載の e-mail アドレスには、講演申込及び講演原稿の受領通知等は、お送りしません。これらは、連絡者の e-mail アドレスにお送りします。

(6) 連絡者情報：請求書の送付及びメールでの諸連絡に必要です。項目に従ってご入力下さい。講演申込及び講演原稿の受領通知は連絡者のメールアドレスにお送りします。

(7) 原稿ページ数：「2」または「4」ページより選択して下さい。

(重要) 申込確定後の原稿ページ数の変更はできません。申込受領後にそれぞれの講演発表のページ番号を振り分けます。

(8) セッション名・キーワード及び要旨：希望のセッション名を一つ選択して下さい(なお、各セッションへの割り当て及びセッション名の決定は、講演申込状況全体を勘案して、プログラム編成委員会で決定します)。「キーワード」は5つ程度を入力下さい。「要旨」は発表内容が分かるように100字程度で記載して下さい。なお、キーワードは、講演原稿を収めたPDFファイルの検索にも使いますので、適切な言葉を選んで下さい。

(9) ポスターセッション：ポスターセッションまたはオーラルセッションを「希望する」、「どちらでもよい」のいずれかを選択して下さい。ポスターセッションを実施しない部門で発表される場合は、記入しないで下さい。

※ポスターセッションへの割当は、プログラム編成委員会で決定します。できるだけ発表者の希望に添うように編成を行いますがプログラム編成上の都合によりご希望に添えない場合もあります。あらかじめご承知おき下さい。

(10) スペシャルセッション：部門の選択画面でスペシャルセッションを選択した方のみ選択して下さい。招待講演だけで構成するスペシャルセッションやスペシャルセッションを実施しない部門で発表される場合は、選択しないで下さい。

(11) 懇親会参加申込：事前参加登録のWEBページからお申込み下さい。

(12) 事務連絡：プログラム編成委員会・学会事務局へ連絡がありましたらご記入下さい。

### III. web 経由の提出原稿

1. 提出原稿：次の2種類です。

(1) 講演論文原稿(A4サイズ(210mm×297mm)、縦長、原稿ページ数は2又は4ページ：CD-ROMに収録)  
※原稿ページ数は、申込時のページ数と一致させて下さい。申込確定後の修正はできません。申込受領後、全ての原稿のページ数を指定するため原稿提出時の変更には対応できません。

→原稿の詳細は後掲の「2. (2)講演論文原稿の仕様」を参照して下さい。原稿作成のためのスタイルファイル及びテンプレートが日本音響学会ホームページにあります。このスタイルファイル及びテンプレートは、新しい仕様になっておりますので、旧来のファイルをお持ちの方は差し替えをお願いします。

(2) 講演要旨原稿(A4サイズ、縦長、PDFファイル1ページ：講演論文集に印刷、レターサイズは受け付けません。)

- 必ず A4 サイズで縦長（210 mm×297 mm）で作成下さい。
- MS-Word のテンプレートが日本音響学会ホームページにあります。

## 2. 講演論文原稿

### (1) 概要

- ア. 提出いただく原稿はすべて PDF ファイルで提出して下さい。A4 サイズ（210 mm×297 mm）、縦長。講演申込時に指定したページ数（2 又は 4 ページ）で作成して下さい。容量は原則として最大 1 MB です。**レターサイズは使用しないで下さい。**招待講演のページ数等も同様です。
- イ. この原稿作成のための LaTeX 用のスタイルファイル及び MS-Word 用のテンプレートを準備いたしました。本学会ホームページからダウンロードして使用して下さい。
- ウ. LaTeX 及び MS-Word 以外のソフトウェアで原稿を作成される方は、原稿作成時の上下左右のマージンを守って作成下さい。
- エ. PDF ファイルに変換ができない方又は PDF 原稿を web 経由で提出できない方は、事務局で代行します。原稿を作成の上、原稿提出期間内に学会事務局に郵送(電子データ)又は e-mail (添付ファイル)でお送り下さい。
- オ. PDF ファイルの作成プログラム(ネット上のサイトを含む)によっては、原稿受領サーバーが受け付けられないケースがあります。ご注意下さい。

### (2) 講演原稿の仕様

- ア. マージン：提出いただいた PDF 原稿に機械的に講演番号、スペシャルセッションの場合はそのテーマ名、発表会名、ページ数、年月を入れることとなります。従いまして、原稿の上下左右のマージンが守られていない場合は文字が重なることとなります。学会から提示する LaTeX のスタイルファイル及び MS-Word のテンプレートを利用されない場合は特にご注意下さい。
- イ. マージンのサイズ

	寸法 (mm)
左マージン	23
右 "	23
上 "	17
下 "	19

- ウ. LaTeX の標準スタイルファイル：ホームページ (<http://www.asj.gr.jp>) からダウンロードして入手して下さい。
- エ. MS-Word 用の標準テンプレート：ホームページ (<http://www.asj.gr.jp>) からダウンロードして入手して下さい。

- 本文の文字の大きさとフォント種別

Table 1 Fonts to be used in the manuscript

文章の種類	フォントサイズ	日本語フォント	英数字フォント
タイトル	14 pt	MS 明朝	Times New Roman
著者	12 pt		
英文タイトル (脚注)	11 pt	—	
セクション (見出し 1)	12 pt	MS ゴシック	Arial
サブセクション (見出し 2) ※謝辞, 参考文献も同様	11 pt		
本文		MS 明朝	Times New Roman
図表のタイトル			
謝辞本文			
参考文献本文			

\*A4 サイズ (210 mm×297 mm)、縦長とし、レターサイズは使用しないで下さい。

- オ. 上記のウ又はエ以外のソフトウェアで原稿を作成される方は、原稿の上下左右のマージンは必ず守って下さい。また、フォントのサイズ、種別等はできるだけ上記に近い仕様で作成することをお勧めします。上記以外のフォントを用いた場合には PDF 原稿に全てのフォントを埋め込んで提出して下さい。

カ. 予稿用の PDF 原稿のファイル容量：講演原稿のページ数(2 又は 4)にかかわらず原則として 1 MB を上限とします。写真等を貼り付ける際は十分ご注意ください。

キ. その他：PDF 原稿を提出いただくにあたり、原稿の表現方法が多様になります。幾つかの点について検討をいたしました。現時点で対応している事項は次のとおりです。

- ・カラーの図、表及び写真等を入れることは問題ありませんが、原稿の容量が 1 MB を超えないことを条件にします。
- ・参考文献等にリンクを張ることについて、著者の自己責任を条件に許可します。特に、リンク先が有料の場合のほか、リンク先の著作権を侵害はしないこと等に十分配慮し、原稿作成時点での確認をお願いします。

(重要)

■PDF 作成上の注意

投稿後、PDF 編集を行う関係上、PDF ファイルに対しセキュリティ設定

(ファイルロック、パスワード等)を行わないで下さい。

必ず A4 サイズ (210 mm×297 mm) で作成して下さい。レターサイズは受け付けません。

### 3. 講演要旨原稿

#### (1) 概要

ア. 講演要旨は、講演論文集に印刷して、あらかじめ聴講者に概要を知らせる目的のものです。約 45%縮小して 1 ページあたり 4 題の講演を印刷します。提出は PDF ファイルで、使用する文字の大きさは、講演題目及びタイトル 24 ポイント、英文タイトル 16 ポイント、著者氏名 16 ポイント、本文 18 ポイントで作成して下さい。A4 サイズ (210 mm×297 mm) 1 ページの縦長で、上下左右のマージンは共に 15mm 以上として下さい。

イ. 原稿は、講演番号、タイトル、英文タイトル、発表者名 (連名含む) 並びに講演要旨等で構成して下さい。作成例及び MS-Word 用のテンプレートを本学会ホームページに掲示します。

講演番号は、プログラム編成委員会終了後の 6 月 27 日頃に e-mail で連絡します。

ウ. PDF ファイルに変換ができない方又は PDF 原稿を web 経由で提出できない方は、事務局で代行します。

エ. 講演論文集に 1 ページ当たり 4 題となるように縮尺して印刷します。

オ. 講演要旨は、2019 年 8 月 22 日頃、学会ホームページ上でも公開します。

■PDF 作成上の注意

投稿後、PDF 編集を行う関係上、PDF ファイルに対しセキュリティ設定

(ファイルロック、パスワード等)を行わないで下さい。

#### (2) 講演要旨原稿の仕様

ア. 原稿の向き・大きさ・マージン

A4 縦長とし、マージンは、上下左右ともに 15 mm 以上として下さい。

横長で作成された原稿は縮尺が大きくなるため、印刷すると判読できなくなります。また、レターサイズは使用しないで下さい。

※原稿の向き・マージンは必ず守って下さい。

イ. 記入すべき事項：講演番号、タイトル、英文タイトル、発表者名 (連名含む) 並びに講演要旨等。

ウ. 注意事項：提出いただいた要旨用の PDF 原稿は、45%程度縮小して印刷することになります。

縮小して印刷しても内容が分かるようにポイント数、行数を十分配慮して作成して下さい。図を用いても結構ですが、縮小に堪えうるものとして下さい。文献等は、講演論文原稿に表示し、要旨には記載しないで下さい。

#### 発表時の PC 用プロジェクタ原稿

論文集に掲載される原稿と同様に、発表時に使用する PC 用プロジェクタの原稿について、グラフの縦・横軸の説明文や題名の英語表記をお願いします。

#### 参加費

1. 参加費は、発表者、連名者を含み、参加者全員から申し受けます。発表会当日は必ず総合受付にお立ち寄り

下さい。

2. 参加費の中に講演論文集を含みます。

3. 参加費は「事前参加登録費」と「会場参加登録費」の2つの区分があり、それぞれの参加費は次の通りです。

参加種別	事前参加登録費	会場参加登録費
ア. 正 会 員 ………	10,000 円	12,000 円
イ. 終 身 会 員 ………	5,000 円	6,000 円
ウ. 学 生 会 員 ………	3,000 円	3,500 円
エ. 賛助会員所属職員 ………	10,000 円	12,000 円
オ. 会 員 外 学 生 ………	5,000 円	6,000 円
カ. 会 員 外 ………	22,000 円	26,000 円
キ. 高 校 生 ………	無料	

なお、研究発表会終了後の講演論文集の販売価格は、会員 12,000 円、会員外 26,000 円です。

また、会員の参加費(前記ア～エ)は消費税の課税対象外(不課税)です。会員外(前記オ～カ)は消費税の課税対象です。

### 講演申込料等の納付

2019年7月下旬に請求(納付)書をお送りする予定です。お送りするものは、請求書等又はコンビニエンスストアでの納付が可能な書類です。コンビニエンス納付書は、郵便局でも支払いが可能です。ご都合の良い方法で納付して下さい。このコンビニエンス納付書を利用いただきますと振込の手数料は掛かりません。

なお、コンビニエンス納付書を同封しない場合もありますが、ご連絡いただければお送りすることも可能です。

銀行振込で納付される場合は、手数料が必要になりますので、ご承知おき願います。当学会郵便振替口座への納付も可能です(学会専用用紙がない場合は有料になります)。

郵便振替先 (社)日本音響学会 00120-9-136290

銀行振込先 三菱UFJ銀行 新宿中央支店 (社)日本音響学会 普通預金口座 3935498

三菱UFJ銀行 神田駅前支店 (社)日本音響学会 普通預金口座 1671112

三菱UFJ銀行 秋葉原支店 (社)日本音響学会 普通預金口座 3909748

みずほ銀行 新宿西口支店 (社)日本音響学会 普通預金口座 1164066

三井住友銀行 神田支店 (社)日本音響学会 普通預金口座 2175551

※当学会は、一般社団法人ですが、金融関係では「シャ)ニホンオンキョウガクカイ」で処理されるようです。

### 懇 親 会

開催日時 2019年9月5日(木)19:00(予定)から1.5時間程度

申 込 事前申込制です。希望者は、事前参加登録サイトの該当欄でお申込み下さい。e-mail(asj-meeting@asj.gr.jp)、ファクシミリ、葉書に「所属、氏名のほか研究発表会懇親会参加」と明記して、学会事務局あてお送りいただいても構いません。

なお、事前参加登録サイトの参加受付は、2019年6月17日(月)～2019年8月14日(水)の間です。なお、定員に達し次第締め切ります。

※事前申込は、参加が確定している方のみお申し込み下さい。

留意事項 1. 事前申込者は、9月5日(木)12時までに、総合受付で参加費を納入して下さい。この時刻を過ぎると参加できない場合があります。

2. 参加の申込者で都合により取り消す場合は早目に事務局又は総合受付に連絡して下さい。

表 1. 各部門ごとのセッション名のリスト

部門の種類	セッション名
音響教育	音響教育, 教育プログラム/カリキュラム, 教育システム, 教材, 教育ソフトウェア, 実験, デモンストレーション, シミュレーション, 可視化/可聴化, サウンドスケープ, 音響学の歴史
水中音響	水中音響, 音波伝搬, 音響トモグラフィ, 水中通信, 生物音響
超音波	波動・伝搬, シミュレーション, 物性・計測, 材料評価, 計測法, 非破壊検査, 光音響, デバイス, トランスデューサ, センサ, アクチュエータ, 弾性表面波, 強力超音波, 非線形音響, ソノケミストリー, 超音波モータ, 超音波浮揚, 医用超音波, 超音波診断, 組織性状診断, 安全性・標準化, ナノ・マイクロバブル, 生物超音波
熱音響技術	熱音響物理, 熱音響システム, 熱音響デバイス
電気音響	トランスデューサ (マイクロホン・スピーカ・センサ等), 計測手法, 音源分離, エンハンスメント (雑音除去, 残響除去等), 音源定位・到来方向推定, 音響イベント・音検出/分類, 音場収録・解析, 音場再生・制御, 空間音響・バイノーラル技術, アクティブノイズコントロール・エコーキャンセレーション, ネットワークオーディオ, 音質評価・評価手法, 音響応用, 音響信号処理
騒音・振動	音源探査, 計測法, 心理評価手法, 防音壁, 吸音材, 低騒音舗装, 固体音, 航空機騒音, 道路交通騒音, 道路交通騒音予測, 空力騒音, 屋外騒音伝搬, 機械騒音, 振動と音響, ダクト音響, 社会調査, 音源識別, 心理・生理, 気流騒音, 音響放射, 数値解析, 鉄道騒音, 騒音振動対策, サウンドデザイン, サウンドスケープ, 交通騒音, 音質改善
建築音響	音源・伝搬, 音響入射・反射, 拡散・散乱, 吸音, 遮音, 音響材料, 固体音, 床振動・床衝撃音, 理論解析・数値解析, 室内音場, 聴感評価・指標, 音声伝達, スピーチプライバシーセキュリティ, 音場計測・測定法, 音場制御, 音響設計, 学校音響
アコースティックイメージング	可視化/可聴化, 映像化/音像化, 画像応用, シミュレーション, 音響教育・理解ツール, 感性表現, 立体音響, 計測・解析・評価, デバイス技術, 新しいアプローチ
聴覚	聴覚生理, 中枢機能, 時間知覚, 音像定位, 聴覚心理, マルチモダリティ, 聴覚の時間的側面, ラウドネス知覚, ピッチ知覚, 音色, 聴覚モデル, 福祉音響, 聴覚障害, 動物の聴覚, 動物の聴覚と音声, 音質評価, 聴覚末梢と音声, 記憶とマルチモダリティ, 音源定位モデル, 障害と知覚, 視聴覚, 脳活動計測, 空間知覚
聴覚・音声	音声言語知覚, 福祉音響, 韻律, 知覚と生成, 音声言語習得, マルチモダリティ, 音声言語障害, 音声の評価, 音声言語学習システム, 中枢機能, 発達学習, ピッチとラウドネス, ブレインイメージング, 音声言語・発達, 補聴, 評価・予測, 音の分析と評価
音声コミュニケーション	音声科学 (音声生成・音声知覚), 音声学・音韻論, 言語獲得 (第 1 言語・第 2 言語), 言語教育・言語学習, コミュニケーション障害・音声言語治療, 音声言語医学, 音声伝達, 音声言語と認知心理学, 音声言語と言語発達, 音声言語と脳神経科学, 音声言語と福祉, 音声言語と法科学, 人と人の音声対話・コミュニケーション, マルチモーダルコミュニケーション, コミュニケーション支援・学習システム
音声 A	音声認識, 音響モデル, 音響特徴量, 言語モデル, 話者認識, サーチ, 適応技術, 耐雑音性, 音声区間検出, 音声システム・組込み技術, 音声インタフェース, 音声対話, 信頼度, マルチモーダル, 音声情報検索, 音声ドキュメント処理, 多言語処理・音声翻訳, パラ言語・非言語情報の認識, 音声イベント・環境音, 音声セキュリティ
音声 B	音声分析, 音声合成, 音声・オーディオ符号化, 韻律, 声質, 歌声, テキスト音声合成, 単位選択・素片選択, パラメトリック音声合成, DNN 音声合成, 声質変換, 外国語音声の特徴分析, 言語教育・学習支援, パラ言語・非言語情報の分析・合成, 発話障害, 音声福祉応用・障害者支援
音楽音響	弦楽器, 管楽器, 打楽器, ピアノ, 歌声, 演奏, 振動, 音響分析, 音響合成, 音楽情報処理, 知覚・認知・心理, 音高・音階・音律

音支援（音バリアフリー）	バリアフリー，ユニバーサルデザイン，音響福祉／福祉音響，音によるコミュニケーション支援，音案内，補聴，アシスティブデバイス，障害者支援，高齢者支援，障害者教育，障害者のための音環境，高齢者のための音環境，子供のための音環境，高齢社会
音のデザイン	製品音のデザイン，サイン音のデザイン，サウンドスケープ・デザイン，公共空間の音環境デザイン，音のユニバーサル・デザイン，映像メディアにおける音のデザイン，音のデザインの基礎となる音質評価